

サポートツール全国キャラバン2013「教材教具研修会」in 長野

発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた
指導・支援の具体的方法

研修会報告書

2013年12月1日

児童発達支援センター にじいろキッズらいふ 多目的ホール

主催：特定非営利活動法人 全国LD親の会

共催：長野県LD等発達障害児者親の会「よつ葉の会」

【研修会開催趣旨】

「障害者の権利に関する条約」への批准に向けた国の取組みの中で、平成23年7月、障害者基本法改正案が可決され、平成24年7月には「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」の中で「障害のある子どもと無い子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶことを目指すべきである」という提言がなされた。「共生社会」とは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会であり、その形成に向けたインクルーシブ教育システム構築が求められている。

2007年4月、学校教育法が改正され、特別支援教育の推進が図られてきた。全国LD親の会では、2006年度から2年間にわたり、文部科学省から「障害のある子どもへの対応におけるNPO等を活用した実践研究事業」の委嘱をうけ、「LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害向けの教材・教具の実証研究」を日本発達障害ネットワーク（JDDネット）の加盟団体等と共同で行い、学校や療育機関での先行事例・有効事例、家庭での工夫等による教材・教具のアイデア、事例を収集して、LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害のある子どもの困難やニーズに合わせた有効なサポートツール（教材・教具など）を体系的に整理し、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）

<http://www.jpald.net/research/index.html>

を作成した。

さらに、2009年度からは、日本財団の助成を受けて、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）を質、量とも充実させ、普及させるための事業に取り組み、今年度からは、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築を目指して、特別支援教育の推進によって蓄積されてきたノウハウの汎用化・ユニバーサルデザイン化・様々な障害の状態に応じた支援機器の充実を図った「発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化」事業に取り組んでいる。

ユニバーサルデザイン化には、一人一人のニーズを把握するパーソナル化の視点が不可欠であり、各地で研修会を開催して「インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の視点」について考えていく。開催準備や開催後の連携を視野に入れて、全国LD親の会加盟の開催地域の親の会を中心に、特別支援教育士資格認定協会S.E.N.Sの会各支部会・各都道府県作業療法士会と連携を図って進めていく予定であり、今年度は長野市と静岡市で開催する。

【研修会開催要項】

日 時：2013年12月1日（日）10：00～16：30

会 場：児童発達支援センター にじいろキッズらいふ 多目的ホール
長野市若里6丁目6番14号

プログラム

- 1、講演1 「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」
～使い方で変わる教材の有効性～

講師 山田 充 氏

(特別支援教育士スーパーバイザー・自閉症スペクトラム支援士アドバンス・
堺市立日置荘小学校通級指導教室教諭・堺市特別支援教育専門家チーム・
堺市特別支援教育推進リーダー育成研修推進委員)

- 2、講演2 「作業の工夫で子どもたちを元気に！」
～発達障害のある子どもたちに応じた教材教具の工夫～

講師 丹葉 寛之 氏

(藍野大学医療保健学部作業療法学科講師・大阪府作業療法士会発達部門代表)

- 3、ワークショップ

「子どものテスト等や、ビデオによる事例検討の手法ワーク」

主 催： 特定非営利活動法人全国LD親の会

共 催： 長野県LD等発達障害児者親の会「よつ葉の会」

後 援： 長野県教育委員会、長野市教育委員会、社会福祉法人長野市社会事業協会
一般社団法人日本LD学会、一般社団法人日本作業療法士協会、
一般社団法人長野県作業療法士会、日本感覚統合学会

事務局： 〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-26-5 パロール代々木415

TEL/FAX： 03-6276-8985 E-MAIL： jimukyoku@jpald.net

URL： <http://www.jpald.net/>



「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用 ～使い方で変わる教材の有効性～」

報告者：山田 充（特別支援教育士スーパーバイザー）

講演は、まず原因を考えない支援は、子どもにやってもやっても出来ない経験をさせている、その結果子どものモチベーションを下げているという説明から始まった。さらに具体的な子どもの姿とその子どものもつトラブルを紹介しながら、その要因が思いもよらない原因で起こっていることを説明していった。そのことに対応しないと二次障害となる。学校現場などで問題行動を起こす子どもたちの多くは、学習困難への支援がしてもらえず、そこから問題行動に発展する二次障害であることが多い。二次障害というものがあるということを強調しながら話を進めた。

学習困難の要因を探る体験のために、子どもの算数のテスト問題などを提示し、誤りの要因をきちんと考えていき本人の特性と結びつけることで、学習支援の具体的な方法を見つけることが出来ることを紹介した。分析の方法についても、少し紹介しながら進めた。

このように子どもの様子を紹介する事例ベースで、講演をすすめ、その事例の子どもへの対応を紹介する中で、実際に使用している教材（データベースで紹介されている物も含めて）のコンセプトを紹介するとともに具体的な使用方法について説明していった。

次の支援方法を障害特性ごとにまとめて説明した。LD状態への対応は認知への支援、ADHD 傾向への支援は集中への支援、広汎性発達障害傾向の子どもたちには、その特性の理解と特性に沿った道筋の支援が必要であることを紹介した。

2時間に及ぶ講演であったが、会場いっぱいの参加者はとても熱心に聞いて下さり、たくさんの有り難い感想を頂いた。感想の中で特徴的なことは、このような要因にそくした具体的な支援の話始めて聞いたという方が多かったこと、子どもの様子を思い浮かべながら聞いていただく方が多数おられたことと、子どもの様子や行動を分析することの重要性を認識した、教材もたくさん知ることが出来た、また今後実践してみたいというような積極的な感想を多数いただいた。



【感想から】

保護者

- 山田先生のお話しはとても具体的で、子どもの困っていることを分析して、本人や保護者にフィードバックしてくださりよく理解できるように次第になることがよかったです。今まで親としても分からなかったことを、話しの中で教えていただき今後の対応に役立つ事が多くありました。もっと時間があれば、ずっと聴いていたいお話しでした。

教員

- 素晴らしい子どもにとらえでした。その子の困り感を解析することをプロと共に現場でしていけないと子どもは気の毒。現場教師に普及したい。

作業療法士

- 解析がとても大切なこと、こどもたちは必ず変わることがよく分かりました。作業療法士は、姿勢などを見るのは得意ですが、他の視点もさらに深めたいなと感じました。

講演 2 報告

「作業の工夫で子どもたちを元気に！」 ～発達障害のある子どもたちに応じた教材教具の工夫～

報告者：丹葉 寛之（藍野大学医療保健学部作業療法学科講師）

「教材教具研修会」 in 長野では、「作業の工夫で子どもたちを元気に! ~発達障害のある子どもたちに
応じた教材教具の工夫~」というテーマで研修を行いました。その中で「子どもが行っている活動の
難しさの原因を考える視点を深めること」、「具体的な相談から原因分析と支援について知ること」、「自
分の関わり方を振り返ること」を目的に講義をおこないました。

具体的な内容として、①作業活動を分析するとき、人の心身機能（感覚運動的側面、認知的側面な
ど）を捉えていくこと、②活動を一連の行為として捉え、どの部分で困難さを示しているのかを見て
いくこと、③活動遂行を「人と作業と環境」の3つの視点で捉えていくことをお話ししました。これ
らのことを基本にしながら、④学校でよく見られる具体的な場面を通して子どもが行っている活動の
困難感について説明を行いました。また、子どもの示している活動の具体的なサポートについてもお伝
えをしました。

発達障害のある子どもは、私たちの感じ方や、情報の処理の仕方が違うこと、大人側の思いと子ど
も側の思いが同じではなく、大人の出来るはずと言う思いは通用しないこと、一生懸命努力している
から、疲れやすくて持続して取り組むことが難しいこと、失敗経験が多いことから苦手なことを避け
るため、余計に色々なことに対しての経験が少なくなること、私たちと感覚の感じ方の違いがあるた
め、感覚を上手く調整（選択）して取り込むことが難しいので、心身にストレスがかかりやすいこと、
作業をしているとき、姿勢や手の使い方の問題、工程の理解など様々なことが影響し、作業に安心し
て取り組みにくいことや、満足感、達成感を持ちにくいという特徴について、説明をしました。

色々な困難感を示している子どもたちに対して、人やモノ、環境と上手く関係がとれる方策を見つ
けていくこと、無理をしすぎない、自分のやり方で、どこを助けて、何を練習すべきかを、明確にし
ながら支援を行う必要があること、大人が見守り、最小限の協力を行い、自分で出来た喜びを達成で
きることを、作業の可能性を奪わないことが大切になることをお伝えしました。



ワークショップ 報告

ワークショップでは、事前に参加者を8グループに分け、教員・支援者・保護者がほぼ同じ割合になるように配置しました。(1グループ8名程度)

まず、事例となる対象児童(小4男子)を撮影した映像を視聴しました。内容は、教室内で答案用紙が返却される場面、家庭での様子(食事の姿、宿題に取り組む様子、折り紙、なわとびを行う様子)でした。その他、資料として配布した、対象児童に関するエピソード、漢字練習帳、算数ドリル、日記、答案用紙を読み取った後、各グループ毎に課題と支援方法について討議を行いました。討議では、当初の設定時間を延長するほど活発な意見交換が行われていました。

その後、グループ毎に討議内容を発表し、その内容を丹葉先生がホワイトボードに「姿勢・運動」「感覚」「学習」「支援」の4項目に分けて板書していかれ、最後に両先生からコメントをいただきました。

丹葉先生からは体幹と感覚に問題があることが指摘されました。体幹の筋緊張に苦手さがあるので姿勢保持が難しいこと、また、手首を安定して使えないため、書く姿勢、食べる姿勢にも影響があることが指摘され、さらに感覚に問題もあるので、常に自分自身に対して刺激を与えなければ座っていることが困難で、落ち着かない様子の原因になっているというお話でした。

山田先生からは、「統合的な支援が必要」ということで、支援に三本の柱を立て、三位一体の支援の必要性を説明していただきました。支援の一番目は丹葉先生が指摘された「姿勢・運動」の問題だということでした。二番目は「感覚」の問題で、エピソードや配布資料から読み取れた文字を書く・読む際の困難さの原因は、図と字の弁別が弱いという点で、そのトレーニングとして『間違いさがし』を利用し、難しい問題については問題を解く方略を教えるという具体的なお話もありました。三番目には、否定に弱く、心配性であるという気質の問題があり、否定の声かけから入る支援を避けること、見通しを持たせた生活が必要といった支援のコツを説明していただきました。これら全て、どれも欠けることなくトータルで一年後くらい先を目標に支援していく必要があるというお話でした。その際に、子どもの気持ちに寄り添うことは大切だが、寄り添いつつもその子に合うちょっとした課題を日々達成させることで「やったらできる」という自信を持ちつつ頑張らせることが大切だとアドバイスをいただきました。

様々な立場の参加者が課題や支援方法をグループで話し合うことは、経験が無く不安を感じていた方もいましたが、どのグループも積極的に意見が出ていて「得難い経験となり、良かった」との声が聞かれました。グループで発表した後に先生方のコメントで課題が整理され、専門的で具体的な支援方法のヒントを得られ、支援者、保護者それぞれにとって大変有意義なワークショップになった、という手応えを感じる事が出来ました。



サポートツール全国キャラバン2013「教材教具研修会」in長野
発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた指導・支援の具体的方法

〈アンケート集計〉

参加：一般 60名 会員 30名 計90名
 アンケート回収：46

1. ご回答者の属性をお教えてください。(複数回答あり)

保護者	
会員	その他
11	12

教員					
幼稚園	小学校	中学校	高等学校	養護学校	その他
—	10	2	—	6	2

作業療法士			
医療	療育	福祉	その他
—	—	2	—

その他
10*

* マルチメディア Daisy 教科書制作：特別支援教育士：学生：中学校特別支援教育支援員：福祉
 ：言語聴覚士：保育士

2. 本日の企画はいかがでしたか？感想をお聞かせください。

(1) 講演1「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」
 ～使い方で変わる教材の有効性～

保護者

- 具体的でわかり易かった。延長してもよかったので全て聞いたかった。
- 参考になる事例ばかりで明るい光が見えたようでした。
- できないことをできるように指導することで問題行動がなくなるということが大事ということが心に残った。
- 具体的な事例がたくさんあり、その中に支援する上で大切な事、忘れてはいけない事、勉強させていただきました。
- 具体的な「どうやって」を教えていただけてよかった。どうやっての所がわからなくてこまっていたので。
- 良い先生とすばらしい教材で子どもが伸びる事がわかりました。
- 勉強になりました。分析！！大切さがわかりました。
- 山田先生のお話しはとても具体的で、子どもの困っていることを分析して、本人や保護者にフィードバックしてくださりよく理解できるように次第になることがよかったです。今まで親としても分からなかったことを、話しの中で教えていただき今後の対応に役立つ事が多くありました。もっと時間があれば、ずっと聴いていたいお話しでした。
- わが子を思いうかべながらどのように対応していくかを考えられました。
- 山田先生の講演は非常にわかりやすくおもしろい内容でした。普段の生活の中でも、見える事だけ

が全てではなく、なぜそうなったかと「解析」することが大切なのだと学びました。

- 実践的な対応の仕方が学びました。本人が困っていることに少し近づけたのかな？・・・と感じられました。
- 子どもの困り感の根本的な原因を見極めて対処をしていく大切さを改めて感じました。一人ひとりの子どもに対応できるように努めていきたいと思います。
- とても聴きやすい講話でした。具体例を沢山あげていただいたのでイメージがしやすかったです。関西の方特有のノリが良かった。
- 知らなかった事、忘れていた事、たくさん気づかせて頂きました。解決策、とりくみ方などを色々わかりやすく教えて頂いた事がありがたかったです。なるべくあせらず、本人のペースに合わせて（でも決めた事はしっかり達成させて）少しずつ進んで行こうと思います。目標の設定がとてもむずかしく感じます。

教員

- 「なぜ」という視点から、困難を生じている要因を明らかにすることの大切さを再認識しました。
- たいへん、あつい話でありがたかったです。
- 具体的な事例をわかりやすく楽しく教えていただきました。子どもの特徴と子どもの状態の因果関係を明らかにして対応を考えていく過程がよくわかりました。高学年、中学生であれば、本人にも自分の特徴を知った上で具体的にどのように進めていけばよいか示唆することも大切なんだと感じました。
- とてもよかったです。時間をかけて、もっと教えて頂きたい。時間がなくなり、後半がいそがしくなってしまうと残念。最後までお話をうかがいたかった。
- 実際使える具体的な話をうかがえてよかったです。
- 山田先生の話は、実践にもとづいた話で大変役に立つ話でした。ADHDで不注意優勢型の話、アスペルガーは特徴1つでは診断つかないけど、1つでももっているから大変、不登校につながるという話・・・特に心に残りました。また、ぜひ続きを聞きたいです。アセスメントが大事、適切な支援が大事、心にとめてがんばります！
- 目の前にいる子どもの姿をうかべながら聞きました。とても同じケースがあつて、参考になりました。どうしてそういう行動がでるのか分析して、その支援の方法を見つけるということの大切さを知りました。
- 毎日の授業で苦しい苦しいと感じているところに、山ほどたくさんヒントをいただいた思いです。今日、参加出来たこと、大変嬉しく思います。
- 素晴らしい子どもとらえでした。その子の困り感を解析することをプロと共に現場でしていかないと子どもは気の毒。現場教師に普及したい。
- 久しぶりに山田先生のお話を集中してお聞きすることができ、うれしかったです。現在、具体的に支援にあたっているので、たいへん参考になりました。ありがとうございました。山田先生の教材、ほとんど使わせていただいています。
- 大変、勉強になりました。一つ一つ原因についてもっとくわしくふれながらお話をおききたいです。

作業療法士

- 解析がとても大切なこと、こどもたちは必ず変わることがよくわかりました。作業療法士は、姿勢などを見るのは得意ですが、他の視点もさらに深めたいなと感じました。
- とても分かりやすくお話ししていただきました。ありがとうございました。

その他

- 教材もいろいろあり、とても参考になりました。
- 時間が足りないくらいでしたが、密度のある凝縮した内容のお話でした。具体例がわかりやすく「なるほど・・・」と思えることが多々ありました。すぐに・・・というわけにはいかない現状です。

が、工夫して取り入れられる点は試していきたいと思います。

- わかりやすく勉強になりました。具体的でわかりやすかったです。ありがとうございました。
- 印象に残った話でした。将来、障害児の支援ができたらと考えているので、今日の話を経後の学びに活かしていきたいです。
- 具体的な方法を学ぶことができよかったです。支援者として伝えていきたいことをたくさん教えていただきました。
- とてもワクワクする内容でした。もっともっとお話を聞きたい、具体例を学びたい、そして支援する力をつけていきたい、としみじみ思いました。
- すばらしい講演でした。

(2) 講演2「作業の工夫で子どもたちを元気に！」

～発達障害のある子どもたちに応じた教材教具の工夫～

保護者

- 道具と考え方がわかった。
- 子と状況にあったツールを上手につかいたい。
- 体の発達も生活、学習全てにかかわってくる大切さを学んだ。
- イスから落ちる子供、エンピツの持ち方など、少しの工夫で子供が集中できるんだと感じました。
- 日頃の生活が、心身機能に支えられている事を再認識しました。
- 困っている事は、色々な理由があるという事がわかった。
- 具体的な話がきけてよかったです。
- 人の生活と作業活動が密接で根本に基礎的な機能をみて考えることが大事である。単にできる、できないでみえてるのではなく、色々な機能との関わりがあることが分かりました。いつも目の前のこどもしか見えてないので、その根本的な心身機能を知って少し考え方に変化ができました。これからは今日教えていただいた情報や知識に対応、対処したいと思います。
- 子どものことを考えながら聞きました。(どちらの講演も) 学校の担任の先生と一緒に子どもの支援方法を考えていきたいと思います。
- いろいろな教材があると分かりました。
- 丹葉先生の講演では、具体的な体の構造や感覚をわかりやすく説明していただいたので勉強になりました。作業のヒントを頂いたので今後、参考にしたいと思います。
- 体幹の大切さがよくわかりました。
- いろいろな工夫ツールがあることを知りました。参考にさせていただきます。
- たまに当てていただいたので、シャキッとしました。
- とても専門的なお話だったので、やはり親だけでは判断が難しい事がたくさんあるなあと感じました。今、お世話になっている作業療法士の先生にも、もっと積極的に色々お聞きしてみようと思います。

教員

- 感覚、運動面からの実態把握と支援の視点を持ちたいと思いました。
- 心身機能的、環境的、作業課題的、側面のうちどこからくるものなのか分析する必要性、勉強になりました。
- 学校でも落ち着かない子どもが多くて苦しいです。おうちの人も本人も悩んでいると思います。勉強していこうと思います。
- 姿勢、運筆、筋力などのかかわりについて知ることができよかったです。
- 子どもの「できない」を感覚機能など、身体機能の視点から解説・・・私にとっては新しい視点でありがたかったです。
- 何回もきかないと、なかなか理解できないので今回もきけてよかったです。

- 諸環境をととのえることの大切さが分かりました。
- 本校でもモデル事業で「感覚統合」の継続研修をしています。また先生のお話で研修が深まったように思います。ありがとうございました。
- 体の動かし方の苦手な児童がなぜそうなのか、どういう支援がよいのか参考になりました。
- 発達段階があり、道筋を通っていくことがわかりました。

作業療法士

- 姿勢の崩れがあるとはっきりわかっているけど、学校の先生には伝わりにくいことが多いです。姿勢が良くなることでパフォーマンスがよくなることを、もっと伝えて行きたいと思います。

その他

- 作業活動の詳しい解説、子どもの側に立ったアドバイスをいただけてとても勉強になりました。専門的な話も聞けたのでよかった。
- はじめて聞く内容が多くとても参考になりました。
- 今まで足りない視点だったので、おききできて良かった。
- ボディイメージの話が印象的でした。あるかないかで全然違ってくるのだなと思いました。
- 運動、感覚の基本的な知識をわかりやすく教えていただいて良かったです。
- 子供の特性を理解すること、環境を整えること。理解に基づいた具体的な支援の重要性を痛感！
- もう少し具体例を多くして頂けるとありがたいと思いました。

(3) ワークショップ「子どもの解答用紙から何を読み取るか？」

保護者

- 色々考えることが多くて頭が痛くなった。息子と事例がにているので考えさせられた。
- 質疑応答がとても具体的に答えていただき良かった。
- 三位一体と学校と連携して取り組む大切さを是非、活かして行きたい。
- 皆で考えるとたくさんの意見があり参考になります。否定、心配が一番重要であると聞き、我が子にもそこから対応したいと思いました。
- 「達成感」と「見通し」、大切さを知りました。
- 左右トレーニング、最後にきいて良かった。家でやってみます。昨年、東京に行ってきた、再度今回きく事ができました。大阪に息子をつれて行こうと思った時もありました。今日おしえてもらった事をやって、まだダメだったら大阪に行きますので、その時はお願いします。
- むずかしかったです。総合的に支援・・・学校におねがいしたいと思います。
- 少し難しい内容でしたが、具体例を見て考える時間があつたので、今後、子どもの生活を見ながら気づいてあげられるといいなと思いました。
- 大変になりました。「お母さんのサポートが必要」と毎日、学校から言われてました。しかし、学校と一緒に頑張らなきゃ“ムリ”って事、改めて感じました。我が子を見ているようなビデオでした。
- 色々な立場の方の意見が聞けて勉強になりました。

教員

- 子どもの困り感にどう焦点を当てるかが肝だと思いました。
- 色々な立場の方からお話をきくことができて良かったです。いつも教員同士だけの話なので考え方がかたまりすぎていたところもありました。とてもためになりました。明日からさっそく生かせそうなこといっぱいです。
- ビデオから問題点がたくさん出されて悲しい気持ちになった。講師の先生方の説明でほっとした。質問にも丁寧に答えて頂きよく分かった。
- 保護者の視点からの率直なお話が聞けて良かったです。
- 原因、分析が自分の中でしっかりできていないところを改善して行きたいです。先生のお話の中で

あてはまっている、よく似た特性の児童のことが思い出されました。

- いろいろな立場の人の話し合いは視点も違い、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- こうした参加型がいいですね。たくさんの方の支援策が出て、それだけでも参考になりました。また山田先生の「三位一体？」の対応策の基本システム、いつも心にとどめておこうと思います。子どもの心理、器質、大事ですね。
- 一見ちょっとした他の人との違いに見えましたが、それが原因で困っていて、そうなっているのにも理由があり支援法があるんだと感じました。

作業療法士

- ビデオ、資料から支援まで検討する中で、“全体を”考えることが難しいなと感じました。
- 緊張しましたが、いい勉強になりました。ありがとうございました。

その他

- 今日学んだことをより学びを深められた。プリントから多くのことを学べるのが実感できた。
- 一人でなくグループで考えたので安心して考えられた。
- ワークショップは貴重な体験をさせていただきました。三つの視点から支援していくことの必要性を改めて感じました。
- 実践の事例から、一点に集中するのではなく、その子の全体像を見ることの大切さがわかりました。
- あとの質問へのお答えから沢山のことを学びました。よい質問をしてくださった方にも感謝でした。
- 多勢よれば意外に多くの「読み取り」が出せるものなのだなど感心しました。面白い方法だと思いました。

3. 「特別支援教育」「発達障害者支援法」に望まれることやその他ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

保護者

- 山田先生が全国の学校にいれば、こわいものなし！！分身をたくさんたくさん、つくってください。
- 中・高生の支援について
- 子ども一人一人に必要な支援が違ってくるので、担任など一人では対応は難しいと思う。その子にとって、どんな事が支援できるといいのは分かってきていることが多くなってきたが、まだ個人においても、地域によっても格差があるように思う。
- 特別支援教室に入室させてもらっています。日々家庭学習がなかなかできていなくて、学校からも「もっと見てやってください」と言われています。しかし、正直、限界を感じています。年令に応じた学習内容に応じた情報が欲しいです。

教員

- とても勉強になりました。「どうするか」が求められているところに、なかなかついていけないところがありますが、とてもとてもありがたい一日でした。
- 先生方がもっともっと、こんな研修に参加して欲しいと思います！！
- 長野で、子どもの姿から指導をしていくか。方法論だけでなく科学的方法を意識。教育現場でこの事例をぜひ話す機会がほしい。
- もっと現場の保育士、教師が知って欲しいです。

作業療法士

- 何回もこのような会を開いてほしいです。

その他

- 就学前の勉強会も開いてほしいです。
- 社会全体で受け入れ、支援していく必要があると思います。
- 教育する者の力を伸ばしていかなければ・・・と痛感しました。
- 普通校に通う支援が必要な生徒達に対する施策に力を入れていく必要があると思います。

